

ESD 学びあいフォーラム

ESD 学びあいフォーラム

第1回 全国ユース環境活動発表大会の初日は気候変動、ESDについて学ぶフォーラムを開催。気象予報士の藤森氏からは気候変動について、立教大学の阿部教授からはESDについてそれぞれ講義していただきました。2つの講義を受けて行われたワークショップは、持続可能な社会を構築する上で、高校生が自分自身の未来像について考える取組となりました。

私達の暮らしと地球温暖化

NPO法人キャスターネットワーク代表
気象キャスター、気象予報士

藤森 涼子 氏

「IPCCの検証によって地球温暖化の原因は、人間の活動によって引き起こされている可能性がとて高い。」という話から始まり、近年起こった気象災害や、身近な天候や気温といったものを題材に取り上げながら、具体的な数字やクイズ形式で分かり易く説明。環境省が発信している国民運動『Cool Choice』の話も取り上げ、「今日聞いた話を誰かに伝えることも温暖化対策の一つ。今できること、大人になったらできることを自身の問題として考えて行動していきましょう。」と高校生に訴え、話を結ばれました。



藤森 涼子 氏

二酸化炭素は海水に溶けやすいことを実験で見せる

ESD 概論

立教大学教授 阿部 治 氏

『ESD(Education for Sustainable Development)の10年』は2014年に岡山と名古屋で国際会議が行われ幕を閉じたが、それ以降2030年までに世界のさまざまな問題を解決したいと2030年目標(2030アジェンダ)が国連で採択されました。阿部教授は「人と自然の関わり(安全な環境)がある上で、人と人の関わり(健全な社会)が構築され、人と社会の関わり(経済)が潤滑に回ります。ESDは、いろんなものとの繋がりを想像して、関係性を創造するという2つのイメージネーションを育てる人づくりこそが本質。ユースは存在自体がこれからの地球の希望です。」と話されました。



阿部 治 教授

大学生企画によるワークショップ

上記二氏による講義を聞き、気候変動問題やESDについて学んだ上で、環境活動を行っている大学生が企画・ファシリテーターを担ったワークショップが行われました。自己紹介用紙を使った無言、声を出してのコミュニケーションなどで緊張をほぐした後、参加した高校生たちは複数のグループに。グループでは環境に関わる分野で活躍している30代～40代の社会人が経験してきた環境活動をするうえでの楽しさ、苦しさを高校生に伝えました。最後にそれまでの講義、ワークショップの内容を基に「30年後の自分」を考え、さらにそこからさかのぼる形で、そのためにはどんな10年後、5年後の自分が必要かをワークシートに書き出しました。高校生たちにとっては、自分自身のこれからについてより具体的に考えるきっかけとなったはずです。(文・NPO法人エコ・リーグ 早稲田大学4年 長島 匠)



ワークショップの内容を
大学生が説明



各テーブルのファシリテーターも大学生が担当